

平成24年3月期 第2四半期連結決算概要

1. 連結決算実績 (23年4月～23年9月)

(1) 全体概要 (連結会社数：連結子会社65社、持分法適用関連会社5社) (単位：百万m³、億円、円)

	当四半期	前年同期	増減	増減率(%)	(参考)個別決算
ガス販売量	6,940	6,934	6	0.1	6,256
売上高	7,483	7,013	470	6.7	6,476
営業利益	17	480	△463	△96.4	△121
経常利益	19	458	△439	△95.8	△44
四半期純利益	△49	255	△304	—	△62
1株当たり四半期純利益	△1.89	9.54	△11.43	—	△2.39
1株当たり純資産	311.20	320.70	△9.50	△3.0	254.71

(注) 1株当たり純資産は23年3月期末との比較

<当四半期決算のポイント>増収・減益とも2期連続。売上高は歴代1位(これまでの過去最高はH20)。

- ① ガス販売量は、工業用需要が発電用需要増等により増加したものの、気温影響による家庭用需要の減少及び震災・省エネ影響等による既存設備の稼働減に伴う業務用需要の減少等により、0.1%の増加にとどまりました。売上高は、原油価格上昇に伴う原料費調整制度による売上単価増(320億円)等により、都市ガス売上高が6.2%増の5,544億円となったことに加え、扇島パワーステーション2号機の稼働(22年7月稼働開始)等に伴いその他エネルギー(電力)売上高が135億円増加したこと等から、6.7%増の7,483億円となりました。
- ② 営業費用は、ガス原材料費が原油高の影響により620億円増加したこと、及び退職給付数理計算上の差異の負担増(112億円)があったこと等により、14.3%増の7,466億円となりました。この結果、営業利益は96.4%減の17億円となり、これに営業外損益を加減算し、経常利益は95.8%減の19億円となりました。
- ③ これに加え、投資有価証券評価損48億円(前年同期は23億円)を特別損失として計上し、法人税等を計上した結果、△49億円の四半期純損失となりました。
- ④ なお、中間配当金につきましては、1株当たり4.5円といたします(年間予定9円)。

(2) ガス販売量(販売量は45MJ/m³表記)

		当四半期	前年同期	増減	増減率(%)	
お客さま件数	千件	10,777	10,673	104	1.0	
ガス販売量	家庭用	百万m ³	1,317	1,359	△42	△3.1
	業務用	百万m ³	1,348	1,569	△221	△14.1
	工業用	百万m ³	3,358	3,087	271	8.8
	計	百万m ³	4,707	4,656	51	1.1
	他事業者向供給	百万m ³	916	919	△3	△0.3
合計	百万m ³	6,940	6,934	6	0.1	
平均気温	℃	22.6	23.0	△0.4	—	

- ① 家庭用需要は、春先の平均気温が前年同期に比べて高く推移した影響で給湯・暖房需要が減少したこと等により3.1%減少しました。
- ② 業務用需要は、夏場の平均気温が前年同期に比べて低く推移した影響で空調需要が減少したことに加え、震災及び省エネ影響による既存設備の稼働減等に伴い14.1%減少しました。
- ③ 工業用需要は、既存設備の稼働増に加え、震災影響及び扇島パワーステーション2号機稼働に伴い発電用需要が増加したこと等により8.8%増加しました。
- ④ 他事業者向供給は、供給先事業者の需要減等により0.3%減少しました。

(3) 収支概要(都市ガス以外の内訳は「(4)部門別の概況」参照。全社費用は各事業に配賦不能の営業費用)(単位：億円)

収益		増減	増減率(%)	費用		増減	増減率(%)
都市ガス	5,544	326	6.2	都市ガス	3,453	620	21.8
	その他			1,948	114	6.2	
	計			5,401	733	15.7	
都市ガス以外	3,000	321	12.0	都市ガス以外	2,922	370	14.5
事業間内部消去	△1,061	△177	—	全社費用	220	17	8.0
売上高	7,483	470	6.7	事業間内部消去	△1,077	△185	—
営業外収益	85	△14	△14.0	営業費用	7,466	934	14.3
特別利益	—	—	—	営業利益	17	△463	△96.4
				営業外費用	83	△38	△31.1
				経常利益	19	△439	△95.8
				特別損失	48	25	108.9
				四半期純利益	△49	△304	—

(4) 部門別の概況 (単位：億円)

	売上高				セグメント利益			
	当四半期	前年同期	増減	増減率(%)	当四半期	前年同期	増減	増減率(%)
都市ガス	5,544	5,218	326	6.2	142	550	△408	△74.1
器具及びガス工事	776	748	28	3.8	5	8	△3	△36.7
その他エネルギー	1,342	1,054	288	27.3	32	51	△19	△37.4
不動産	147	165	△18	△10.5	26	39	△13	△33.9
その他	734	711	23	3.3	15	27	△12	△45.9
都市ガス以外	3,000	2,679	321	12.0	78	126	△48	△38.1

(注) 売上高には事業間の内部取引を含んでおり、セグメント利益の算出には配賦不能営業費用を含んでいません。

(5) 主要計数

	当四半期	前年同期	増減	増減率(%)
原油価格(\$/bbl)	113.91	78.37	35.54	45.3
為替レート(円/\$)	79.75	88.91	△9.16	△10.3
設備投資(億円)	585	668	△83	△12.5
有利子負債(億円)	6,398	5,841	557	9.5
支払利息等(億円)	49	49	0	1.1
その他有価証券評価益(億円)	197	233	△36	△15.4
営業キャッシュ・フロー(億円)	672	974	△302	△31.0
R O A (%)	—	1.4	—	—
R O E (%)	—	3.2	—	—

(注1) 営業キャッシュ・フロー＝四半期純利益＋減価償却費等

(注2) 有利子負債、その他有価証券評価益は23年3月期末との比較

2. 通期(24年3月期)の業績予想

<業績予想のポイント>	
○	業績予想は連結・個別ともに対前期「増収減益」の見通し。 (以下は、対前回(7/29発表時)業績予想)
○	連結業績予想は主に個別の業績予想の見直しに伴い、売上高は0.5%増加するものの、経常利益は前回と同額。
○	個別業績予想のうちガス販売量は、業務用・工業用の既存設備の稼働増等により0.1%増加の見通し。
○	ガス販売量の増加に伴う売上高増はあるものの、円高の進行による原料価格下落に伴い原料費調整制度による売上単価減等があり、ガス売上高は0.4%減少の見通し。一方、附帯事業損益や営業外損益の改善等もあり、経常利益は前回と同額の見通し。第2四半期に投資有価証券評価損を特別損失として計上したため、当期純利益は前回から16.7%減少する見通し。
○	経済フレームは、10月以降原油価格110\$/bbl、為替レート80円/\$と想定(前回から変更なし)。

(単位：百万m³、億円)

	連結決算						(参考)個別決算					
	通期 業績予想	対前期		対前回(7/29発表時)		通期 業績予想	対前期		対前回(7/29発表時)			
		増減	増減率(%)	増減	増減率(%)		増減	増減率(%)	増減	増減率(%)		
ガス販売量	14,727	△18	△0.1	101	0.7	13,359	△82	△0.6	11	0.1		
売上高	17,140	1,788	11.6	90	0.5	15,030	1,732	13.0	110	0.7		
都市ガス	12,742	1,372	12.1	△27	△0.2	11,880	1,164	10.9	△50	△0.4		
都市ガス以外	4,398	417	10.5	117	2.7	3,150	569	22.0	160	5.4		
営業利益	610	△614	△50.2	0	0.0	350	△538	△60.6	△20	△5.4		
経常利益	580	△635	△52.3	0	0.0	430	△561	△56.6	0	0.0		
当期純利益	320	△634	△66.5	△50	△13.5	250	△424	△63.0	△50	△16.7		

(注) 事業間の内部取引高は都市ガス以外の欄で調整しています。

<前提となる経済フレーム>

	今回 通期見通し	対前期		対前回(7/29発表時)	
		増減	増減率(%)	増減	増減率(%)
原油価格(\$/bbl)	111.96	27.81	33.0	0.72	0.6
為替レート(円/\$)	79.88	△5.86	△6.8	△0.55	△0.7

(注1) 原油価格：前期実績84.15\$/bbl、前回見通し111.24\$/bbl 原油+1\$/bblの3Q以降への収支影響：△11億円(売上高5億円、原料費16億円)

(注2) 為替レート：前期実績85.74円/\$、前回見通し80.43円/\$ 為替+1円/\$の3Q以降への収支影響：△15億円(売上高28億円、原料費43億円)